

安倍総理大臣とターンブル豪首相

共同声明

—特別な戦略的パートナーシップの次なる歩み：

アジア，太平洋，そしてその先へ—

平成27年12月18日

1. 本日，安倍晋三日本国内閣総理大臣とマルコム・ターンブル・オーストラリア首相は，東京において日豪間の年次首脳会談を行った。同会談は，両国間の深く長く続く戦略的，経済的及び人的なつながりを強化した。両首相は，民主主義，人権，法の支配，市場の開放及び自由貿易を含む共通の価値及び戦略的な利益に基づく，日本とオーストラリアとの間の特別な戦略的パートナーシップを再確認した。
2. 両首相は，アジア，太平洋及び国際社会の平和と繁栄に対する責任を担うとの展望をもって特別な関係を深めることの重要性を強調した。この観点から，両首相は，人，物，通貨及び情報の自由な流通を促進するために，普遍的なルール及び高い水準の透明性を尊重する国際的秩序の形成と維持のために貢献する決意を表明した。

経済・イノベーション・交流

3. 両首相は，本年発効した日・豪経済連携協定（日・豪EPA）という直接的な成果を含む，経済関係の実質的な強化を喜ばしく思った。日・豪EPAは貿易及び投資における新たな成長を即座にもたらし，製造業，農業及びサービス業等において新たな機会を開いた。両首相は，北部豪州における潜在的な投資機会の探求等を通じて，日本がオーストラリアをグローバル・フードバリューチェーンのパートナーとしたこと等の両国間の協調的なパートナーシップを歓迎した。
4. 両首相はまた，環太平洋パートナーシップ（TPP）協定交渉の妥結を歓迎し，早期の署名及び発効を促し，地域の安定及び繁栄への恩恵を待ち望んだ。両首相は，他のエコノミーのTPP参加への関心を支えるため共に取り組む意思を共有した。両首相はまた，包括的で質の高い経済連携協定を目指す東アジア地域包括的経済連携（RCEP）交渉の加速を促した。
5. 両首相は，日豪両国に，新たな成長の源泉をもたらし，高賃金の雇用を維持し，次なる経済的繁栄の波を掴むにあたっての，科学技術とイノベーションの決定的な重要性を強調した。両首相は，準天頂衛星システム（QZSS）の活用等の現在進行中の協力プロジェクト，日本の再生医療イノベーションフォーラムとオーストラリア貿易促進庁による覚書の署名，及び日本の主要な研究強化大学とオーストラリアの8大学グループによる研究連携強化へのコミットメント等を歓迎した。日本は，オーストラリアの国家イノベーション科学アジェンダを歓迎し，両首相は，次回の首脳会談で公表すべく，具体的なイノベーション連携を進展させる意思を共有した。
6. 安倍総理大臣は，イノベーション主導の産業構造多様化と地方主導の関係緊密化を目的とした，日豪交流促進会議における日本の努力を紹介した。ターンブル首相は，日本の努力を歓迎し，これらの分野における協力を強化することに期待を表明した。両首相は，オーストラリアへのミッション派遣，都市交通と高速鉄道に関するものを含む定期的ハイレベル会合の立ち上げ，多様かつ柔軟で統合されたLNG市場の形成を含むエネルギー協力等の更なる連携を歓迎した。両首相は，「水素社会」を

実現するための水素サプライチェーン事業等のプロジェクトへの支持を示した。両首相はまた、活発な姉妹都市交流と地方自治体レベルのその他の協力を歓迎した。

安全保障・防衛協力

7. 両首相は、11月22日にシドニーで開催された第6回日豪外務・防衛閣僚協議（「2+2」）の成果と共同コミュニケを歓迎した。両首相は、二国間防衛協力を更に強化するための新たなイニシアティブを承認した。両首相は、共同運用と訓練を円滑化すべく行政的、政策的及び法的手続を相互に改善する協定の作成に向けた交渉の実質的な進展を歓迎した。両首相は、可能な限り早期の交渉妥結を目指し、継続的な進展を促した。
8. オーストラリアは、日本が「積極的平和主義」に沿って、地域並びに世界の平和及び安定、繁栄により一層積極的に貢献することを可能にする平和安全法制を最近成立させたことを歓迎し、支持した。
9. 安倍総理大臣は、豪州の将来潜水艦の実現を支援する国際パートナーを選ぶために進行中の競争的評価プロセスにおいて、全ての要請を満たすことへの日本のコミットメントを説明した。ターンブル首相は、プロセスへの日本の参加を歓迎するとともに、日本のプロセスへのコミットメントに留意した。
10. 両首相は、それぞれの米国との同盟関係の地域の平和と安全に対する貢献を再確認し、米国のリバランス（アジア太平洋重視政策）への強い支持を表明した。両首相は、日豪米間の三か国戦略対話と三か国協力の価値を強調した。また、両首相は、日豪印三か国対話の開始を歓迎した。

地域・国際問題

11. 両首相は、幅広い地域、国際問題及びサイバー・セキュリティのような現代の深刻な課題について見解を共有し、二国間サイバー政策対話の成果を歓迎した。両首相は、世界経済、G20、核軍縮・不拡散並びに米国の役割、東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国、中国、インド及び韓国を含む地域の主要国との関わりについて幅広い議論を行った。
12. 両首相は、北朝鮮に対し、如何なる挑発行為も控えるよう、また、国連安保理決議及び2005年六者協議の共同声明を遵守するよう、かつ、NPTの下でのIAEA包括的保障協定に完全に従うよう求めた。両首相は、北朝鮮に対し、拉致問題を含む未解決の人道懸念に緊急に取り組むよう求めた。
13. 両首相は、日豪両国を含め、地域の全ての国の経済発展は、国際秩序の継続する平和的な維持によって可能となるものであり、将来もそれに依存することに留意した。その観点から、両首相は、東シナ海において現状を変更し得るあらゆる威圧的もしくは一方的な行動に対する強い反対を表明した。両首相は同様に、南シナ海において現状を変更し得るあらゆる威圧的もしくは一方的な行動に対する強い反対を表明し、全ての関係当事者に対し、大規模な埋立て又は建設を停止すること並びにあらゆる地形の軍事目的での使用を自制することを求めた。両首相は、全ての関係当事者に対し、自制し、緊張を緩和するための措置を講じ、現状において緊張を高め得る行動を自制して航行と上空飛行の自由の原則を含む国際法に従って行動するよう要求した。

14. 両首相は、安全保障、安定、経済成長及び地域統合を支援するため、地域的なフォーラムにおける協力を強化し続けるべく、共に取り組む。両首相は、政治、安全保障及び経済に係る課題に関する戦略的対話及び協力のための地域の首脳主導のプレミアム・フォーラムとしての東アジア首脳会議（EAS）の役割を強化する第10回EASの成果、及び地域経済統合等の議題を通じて、貿易と投資のための、開かれた、予見可能な、法に基づく、透明性のある環境に向けた協力を更に深めたフィリピンにおけるアジア太平洋経済協力会議（APEC）関連会合の成功を歓迎した。
15. 日本とオーストラリアは、太平洋地域における経済的繁栄と安定の強い支持者である。両首相は、この地域が平和で豊かな将来を実現するのを助けるためのコミットメントと、太平洋地域における緊密な協力を続けることを確認した。
16. 両首相は、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）におけるパリ協定の採択を歓迎した。両首相は、同協定の効果的な実施に向けて共に取り組む意思を表明した。
17. 罪のない多くの人々を殺害し、負傷させた昨今のテロ攻撃を全面的に非難しつつ、両首相は、対ISIL国際コアリション等の国際的なテロ対策の取組の重要性を認識した。日本とオーストラリアは、イラク及びシリアの危機に対して、重要な人道支援を実施している。
18. 両首相は、国連安保理改革の早期実現の重要性を強調し、そのための協力を促進することをコミットした。
19. ターンブル首相は安倍総理大臣に対し、日本が今期に南極海において捕鯨を実施することを決定したことに対するオーストラリアの深い失望を伝えた。安倍総理大臣は、新南極海鯨類科学調査計画(NEWREP-A)の法的及び科学的根拠に関する日本の立場を説明した。両首相は、日本とオーストラリアは、海における人命や財産に対するリスクとなるいかなる行動も容認しないことを改めて強調した。

その他

20. ターンブル首相は、安倍総理大臣が、両国間の双方向の学生の移動の増加を更に支援するため、日本が外国の学士の学位を有する者に対し、日本の大学院への入学を可能とする旨発表したことを歓迎した。また、両首相は、オーストラリアの新コロソ計画及び日本の「トビタテ！—留学 JAPAN—日本代表プログラム」が促進している学生交流を歓迎した。
21. ターンブル首相は、日本を、オーストラリアのパブリック・ディプロマシーの2018年重点国とすることを表明した。両首相は、人と人との結びつきの機会が増加していることに留意し、喜ばしく思った。両首相は、日本における2019年ラグビーW杯並びに2020年五輪大会及び同年夏季パラリンピック大会開催への期待を表明した。
22. ターンブル首相は、明年、安倍総理大臣をオーストラリアで迎えることを待ち望んでいる。